

「富山物質循環フレームワーク」を 踏まえた資源効率性の向上・3Rの推進 ～食品ロス・食品廃棄物対策の推進～

平成28年5月に開催されたG7富山環境大臣会合において、国際社会が連携し、資源や廃棄物の有効利用を進める「富山物質循環フレームワーク」が採択されました。富山県では、このフレームワークで取組みの具体例として食品ロス・食品廃棄物対策が挙げられたことを踏まえ、富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議を設置し、削減に向けた全県的な運動を推進しています。

この特集では、この主な取組みを紹介します。

1 食品ロス・食品廃棄物の実態把握

(1) 家庭系食品ロス・食品廃棄物実態把握調査（組成調査、アンケート調査）

ア 可燃ごみの組成調査

- ① 平成28年11月から29年8月まで、富山地区広域圏事務組合等に協力いただき、計5回にわたり年間を通じた可燃ごみの組成調査を実施した結果、可燃ごみ全体に占める食品廃棄物の割合は45.0%で全国（41.4%）と同程度でした。
- ② 一方、食品ロス（手付かず食品、食べ残し）については、手付かず食品の占める割合は69%で食べ残しの約2倍もあり、全国（46%）と比べて高くなりました。
夏季（6、8月）には、手付かず食品だけでなく、食べ残しも大幅に増えることから食品ロス発生量が多くなることがわかりました。



手付かず食品



食べ残し

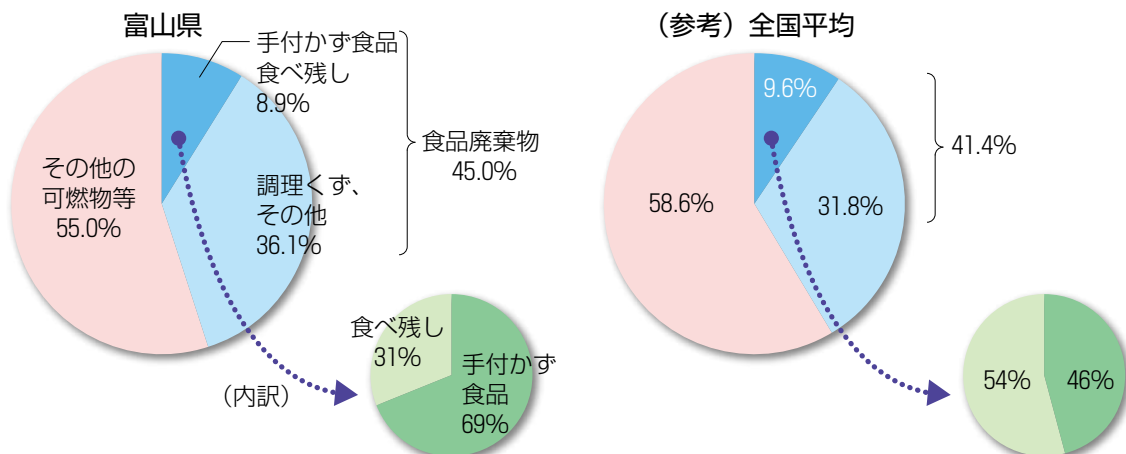


表 家庭ごみの食品ロス量（組成調査実測値）

区 分	11月、1月、3月の平均	6月、8月の平均
手付かず食品	2.1kg	3.1kg
食べ残し	0.7kg	2.3kg
計	2.8kg	5.4kg

イ 家庭へのアンケート調査

- ① 家庭を対象に食品ロス・食品廃棄物の排出状況などについてアンケート調査を実施した結果、88.0%の家庭で「賞味・消費期限切れ等の手付かず食品」が出ており、その理由として最も割合が高いのは「購入したことを忘れ、期限切れになる」（61.5%）でした。
- ② 一方で、食品ロス削減の取組みについては、「買い物の前に冷蔵庫の中を確認している」は59.8%、「賞味・消費期限を確認し期限が遠い食品を購入している」は61.5%の家庭で実施されていました。
 このようなことから、「重複買い」「賞味期限が遠いことによる過信」「冷蔵庫への詰め込みすぎ」など、さまざまな原因で手付かず食品などの食品ロスが発生しているものと考えられます。

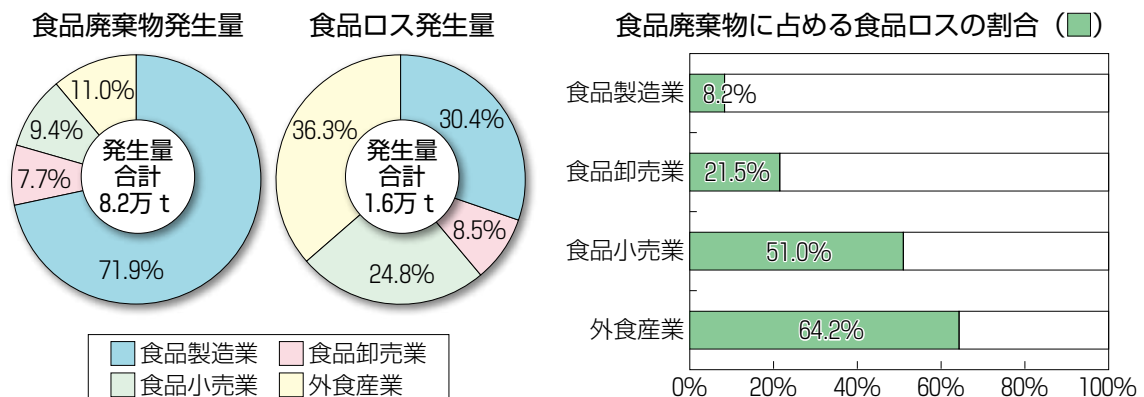
(2) 事業系食品ロス・食品廃棄物実態把握調査

県内の食品関連事業所（食品製造業、食品卸売業、食品小売業、外食産業）を対象に食品ロス・食品廃棄物の発生状況について調査を実施した結果、県内での食品ロス発生量（年間）は1.6万 t と推計され、食品廃棄物に占める割合は19.4%で全国（17.4%）と同程度でした。

表 食品関連事業所からの食品廃棄物の発生量（年間）

区 分	食品廃棄物の発生量	
	食品廃棄物の発生量	食品ロスの発生量（食品廃棄物に占める割合）
富山県	82,185 t	15,929 t（19.4%）
全 国	19,530,000 t	3,390,000 t（17.4%）

また、業種別の食品廃棄物発生量については、食品製造業が全体の7割を占めて最も多くなりましたが、食品ロスの発生量については、外食産業が36.3%と4業種の中で最も多くなりました。また、食品廃棄物に占める食品ロスの発生量の割合は外食産業が64.2%と4業種の中で最も多いことがわかりました。



2 食品ロス・食品廃棄物の削減の取組み

家庭や食品に関する幅広い事業活動において食品ロス・食品廃棄物が発生していることから、その削減に向けた県民運動の展開が必要です。このため、次のとおり、県民会議を設置し、シンポジウムの開催や「3015運動」*の普及など各種啓発等に取り組んでいます。

(1) 推進体制の整備

県民、事業者や消費者の関係団体、行政などが一丸となって食品ロス・食品廃棄物の削減に取り組む機運の醸成を図り、全県的な運動を展開していくため、平成29年5月に、富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議（会長：石井知事）を設置しました。

(2) 食品ロス・食品廃棄物の削減に関する周知・啓発

ア 食品ロス・食品廃棄物削減シンポジウム in とやまの開催

平成29年9月に、約180名の県民の参加を得て、関心や理解を深めてもらうためのシンポジウム（基調講演、パネルディスカッションなど）を開催しました。



パネルディスカッション

イ 食品ロス削減のアイデア募集・情報発信

家庭での取組みを促進するため、家族ぐるみで気軽に取り組める食品ロス削減のアイデアを幅広く募集し、優良事例を表彰するとともに、取組事例を定期的に情報発信しています。

なお、アイデア募集には829名から応募があり、最優秀アイデアは「とやま環境フェア2017」において表彰しました。

最優秀アイデア賞：「食材を使い切る日を作ろう。」

（家にあるもので料理する日を作ろう。食材を使い切ってから買い物に行こう。）

ウ サルベージ・パーティの開催

賞味期限切れなど食材の無駄をなくすとともに、楽しみながら食品ロス削減に取り組む機会を提供するため、家庭で食品ロスになりそうな食材（缶詰、乾物など）を持ち寄り、シェフが新たな調理法をコーチングする「サルベージ・パーティ」の普及に向けてモデル的に開催しています。



サルベージ・パーティ

エ 食品ロス・食品廃棄物削減PR用Webサイトの開設

県内の食品ロス・食品廃棄物の削減に関する情報を一元的に集約し、県民や事業者に向けて情報を発信するため、Webサイト「とやま食ロスゼロ作戦」を開設しました。
とやま食ロスゼロ作戦 <http://foodlosszero.jp>

*立山の標高3015mにちなみ、「30」と「15」をキーワードにした富山型の食品ロス削減運動

【取組内容】

- ・食べきり3015：開宴後30分と終了前15分に自席で料理を楽しむ時間を設定し、料理を食べきる。
- ・使いきり3015：毎月30日と15日に冷蔵庫等をチェックし、必要な分だけ購入して食材を使いきる。

オ 啓発チラシ・パンフレット・ポスターの作成・配布

家庭系食品ロス・食品廃棄物実態把握調査の結果を踏まえて食品ロス・食品廃棄物削減の啓発資材を作成・配布し、家庭での実態や効果的な取り組み内容を幅広く周知しています。

(3) 発生抑制の重点的な取り組み

ア 全県的な食品ロス等削減運動の展開

・食品ロス等削減運動の愛称・標語の募集

食品ロス等の削減に関心を持ってもらい、県民総参加で盛り上げていくため、運動の愛称・標語を募集しました。その結果、愛称には845点、標語には994点の応募があり、最優秀賞を次のとおり決定しました。

【愛称】 とやま食ロスゼロ作戦

【標語】 使いきり 食べきり すっきり エコライフ

この最優秀賞の愛称及び標語を普及啓発資材などに活用し、食品ロス等削減県民運動を展開しています。



シンボルキャラクター
「すっきりんごちゃん」

・食品ロス等削減運動協力宣言事業者の募集・登録

食品ロス等削減に対する意識を高め、機運の醸成を図るため、食品ロス等の削減に取り組む農林水産物の生産者及び食品関連事業者等を「食品ロス等削減運動協力宣言事業者」として登録（127件：平成29年11月1日現在）し、登録事業者には認定ステッカーを交付するとともに、その取り組みをホームページ等に掲載して広く紹介しています。

・消費・賞味期限の近接する商品の優先購入キャンペーンの実施

消費・賞味期限の近接した商品の購入が食品ロス削減につながることを消費者に広く周知し、理解促進を図るため、食品スーパーマーケット等と連携してポスター、POP等PR媒体の掲示によるキャンペーンを実施しています。

イ 食品ロス等削減モデル活動につながる取り組みへの支援

食品ロス・食品廃棄物削減の取り組みを全県的に進めるため、モデル的な3Rの活動や啓発活動の企画を募集し、食品ロス等の削減に積極的に取り組む団体・企業等を支援しています。

3 終わりに

平成30年10月には、3R推進全国大会が本県で開催されることが決定しています。富山県では、これを契機として、本県の環境施策を全国に向けて発信するとともに、3Rの取り組みを一層推進していくこととしております。

環境月間ポスター 富山県知事賞（最優秀賞）



小学生の部 高岡市立二塚小学校 5年 向郷実玖さん



中学生の部 南砺市立城端中学校 2年 松長愛さん

愛鳥に関するポスター 富山県知事賞



小学生の部 砺波市立鷹栖小学校 6年 高田七緒さん

中学生の部

小矢部市立石動中学校 3年 西帆波さん



高校生の部

富山県立高岡工芸高等学校 2年 大澤弥生さん

※昨年度知事賞を受賞した平木里佳さん（当時：砺波市立庄西中学校3年）の作品が、平成29年度愛鳥週間用ポスター原画コンクールにおいて最高賞の（公財）日本鳥類保護連盟総裁賞を受賞し、全国ポスター原画に使用され、全国に3万枚以上配布されました。